

令和 8 年熊本地震に係る
第 4 回政府非常災害現地対策本部会議
第 11 回災害対策本部会議 議事録

日時：令和 8 年 8 月 2 日（日） 9：30～

会場：県庁防災センター 2 階 災害対策本部会議室

1 開会

2 議事

（1）地震状況の説明

別紙「気象台資料」により説明（熊本地方気象台）

（2）県からの報告

別紙「各部説明資料」により説明（各部長等）

（3）国からの報告

①国土交通省

自衛隊や日本水道協会と連携し、避難所や病院に加えて高齢者福祉施設への給水支援を強化している。氷川町では可搬式浄化装置の設置を進めており、井戸水を浄化して入浴支援や生活用水の確保に活用する予定で、8 月 4 日からの運用開始を目指している。引き続き、全国の自治体からの応援も受けながら給水支援体制の充実を図っていく。

②海上保安庁

三角港と八代港において巡視船による給水支援と入浴支援を行っている。8 月 1 日の実績は、三角港で給水 42 トン・入浴支援 130 人。八代港で給水 41 トン・入浴支援 339 人だった。特に八代港では入浴支援の利用希望者が多く、受付終了後も利用が続くなど高いニーズが見られており、引き続き被災者支援に取り組んでいく。

③経済産業省

ガソリンの供給と営業店舗の拡大が進んでいる。特に被害の大きい八代市、宇城市、氷川町周辺では営業中のガソリンスタンドが増加しており、営業状況を確認できるマップも公開している。また、水や食料に加え、衛生用品、乳幼児用品、段ボールベッド、移動式エアコン、簡易シャワー、簡易トイレなどの支援物資を順次避難所へ配送しており、避難所環境の改善を進めている。

④陸上自衛隊

関係機関と連携して給水支援や入浴支援を実施している。8月1日はひのきみ文化センター、八代港、三角港の3か所で入浴支援を行い、約400人が利用した。本日も給水支援と入浴支援を継続するほか、被災者への支援物資配送として、飲料水を65か所へ配布する予定している。氷川町の氷川中学校において、航空自衛隊による簡易シャワー施設を新たに開設し、入浴支援を拡充する予定である。

(4) 関係機関からの報告

①九州電力、

停電の残件数が887件となり、九州全域から復旧要員を集めて早期復旧に取り組んでいる。また、停電復旧状況や問い合わせ先などをまとめたチラシを作成し、県ホームページへの掲載や避難所での配布を進めている。

②日本赤十字社

避難所アセスメントを実施するとともに、衛生資機材の配布や救護所2か所の運営を行っている。段ボールベッドの設置調整や避難所巡回診療の準備を進めている。

③緊急消防援助隊

救急部隊を除く地上部隊が撤収し、今後は救急活動を中心に支援を継続する。現地救急隊の負担軽減や転院搬送対応、避難所の見守り活動などを目的に、34隊102人体制で活動予定。

3 災害対策本部長（木村知事）からのコメント

別紙「本部長（知事）コメント」のとおり

4 現地対策本部長（津島副大臣）からのコメント

連日の猛暑の中で被災者支援に尽力している全ての関係者に感謝を申しあげる。今日、明日は猛暑が予想されており、特に明日は酷暑日となる見込みであることから、被災者や現場で業務に当たる職員、復旧作業に携わる方々に対し、熱中症対策を万全に取っていただきたい。

また、飲料水や冷却用品などについては、引き続きプッシュ型支援により追加供給を進めており、迅速に届けるラストワンマイル支援にも取り組んでいる。

車中泊や車中避難をされている方々、ガソリン供給は継続しているため燃料不足を心配することなくエアコンを使用してほしい。エコノミークラス症候群対策として、足を伸ばして横になれる環境を確保するなどの工夫をお願いしたい。

加えて、水の供給や自衛隊・海上保安庁による入浴支援を継続するとともに、避難所の環境改善や衛生環境の向上に重点的に取り組んでいく。

ボランティアについては、できる限り自身で熱中症対策や必要な準備を整えた上で被災地に入っていただきたいと要請し、国としても県と一丸となって被災者支援に全力で取り組んでまいりたい。